

魅力ある未来の四国づくりを考える

国土形成計画シンポジウムin徳島

これからの国土づくりと社会基盤のあり方

四国には、皆さんの気づかない魅力が溢れています。
現在、国土形成計画の議論が行われていますが、
いっしょに、これからの国土づくりと社会基盤のあり方について考えてみませんか。



定員200名
入場無料

日時 平成19年1月19日(金)
13:30~16:30(開場 13:00)

会場 ウェルシティ徳島 1Fラルジェ
徳島市南前川町3-1-22 TEL088-626-1118



※会場へは公共交通機関をご利用下さい。(JR徳島駅より徒歩7分)

基調講演

演題

「このままでいいのか！
団塊の世代(地域づくりの主役)」

講師

プロデューサー

残間 里江子氏



パネルディスカッション

テーマ

「これからの国土づくりと社会基盤のあり方」

●コーディネーター

岩木 敏久氏(徳島新聞論説委員長)

●パネリスト(50音順)

残間 里江子氏(プロデューサー)

田村 耕一氏((財)徳島経済研究所専務理事)

三木 俊治氏(四国経済連合会副会長)

山中 英生氏(徳島大学教授)

■主催/四国経済連合会 国土交通省四国地方整備局・四国運輸局

■後援/四国商工会議所連合会 徳島新聞社 徳島県 香川県 愛媛県 高知県 四国管区警察局 四国総合通信局 四国財務局
中国四国厚生局 中国四国農政局 四国森林管理局 四国経済産業局 第五管区海上保安本部 第六管区海上保安本部
中国四国地方環境事務所 大阪航空局 大阪管区気象台

あす
魅力ある未来の四国づくりを考える

国土形成計画シンポジウムin徳島

これからの国土づくりと社会基盤のあり方

四国に住む私たちは、温暖な気候と豊かな自然、伝統、文化など四国の魅力を何気なく味わいながら暮らしてきました。しかし、少子高齢化時代に入った今、魅力ある四国はいつまでも続かないと思われまます。今こそ四国に住む人が四国の魅力をきちんとお互いに共有して、全国や世界に誇りうるべきものとして、訴えていかないと四国の明日はなかなか明るいものとならないのではないのでしょうか。

現在、国土形成計画の策定に向けて議論が行われていますが、四国においてもこれからの国土づくりと社会基盤のあり方について議論を行い、四国の魅力を活かした自立した四国づくりを目指すためにシンポジウムを開催します。ぜひ、ご参加ください。

基調講演 演題：「このままでいいのか！ 団塊の世代(地域づくりの主役)」

プロデューサー

残間里江子氏

プロフィール

1950年仙台市生まれ。アナウンサー、雑誌記者を経て、80年にキャンディッド・コミュニケーションズを設立。プロデューサーとして、出版・イベントの企画から企業や地域のコミュニケーション・PR戦略まで、幅広い分野で活躍。2005年、シニアの新しいライフスタイルを提案する「株式会社クリエイティブ・シニア」設立。自身も団塊世代の一員として、新しい「大人文化の創造」に積極的に取り組む。「2007年ユニバーサル技能五輪国際大会」の総合プロデューサーを務める。

●お申込方法

下記の申込様式に必要事項をご記入の上、FAX、又は郵送にてお申し込み下さい。

※定員になり次第受付を終了させていただきます。(定員数に達した後にお申し込みをいただいた場合のみ、お断りの連絡をさせていただきます。)

●お申込期限 平成19年1月12日(金) 必着

●お申込・お問合せ先 国土交通省四国運輸局企画観光部交通企画課
〒760-0068 高松市松島町1-17-33

TEL 087-835-6356 FAX 087-835-6373

参加申込書

連絡者氏名	勤務先等名称
-------	--------

勤務先等住所・TEL・FAX

参加者氏名	勤務先等名称
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----
-----	-----



あす 魅力ある未来の四国づくりを考える 国土形成計画シンポジウム in 徳島

人口減少、高齢化、国や地方の財政逼迫、国際競争の激化など、激しい環境変化は、四国にどのような影響をもたらすのか。これからは、地域に住むわれわれが、自ら考え、持てる潜在力を引き出し、この危機を乗り越えていかなければならない。新しい「国土形成計画」の中間とりまとめにおいても、多様な民間主体と行政の協働、いわゆる「新たな公」による

地域づくりが提唱されている。これからは、地域が主役、住民が主役、われわれ一人一人が主役だ。四国に住んで、どんなライフスタイルを求め、そのためにどのような社会基盤が必要か、一人一人が考えてみよう。そこに魅力的な四国の未来が見えてくる。その一助となるシンポジウムが1月19日、徳島市のウェルシティ徳島で開催された。

これから の国土づくりと 社会基盤のあり方

パネルディスカッション

(敬称略)

コーディネーター
岩木 敏久

徳島新聞社論説委員長

パネリスト(50分間)

残間 里江子

プロデューサー

田村 耕一

(財)徳島経済研究所
専務理事

三木 俊治

四国経済連合会副会長

山中 英生

徳島大学教授

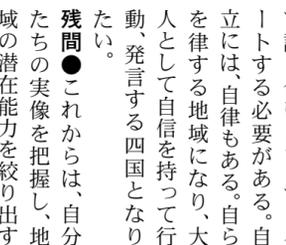
自立する 四国になるために

岩木 ● 全国総合開発計画が戦後の国土づくりを担い、地域振興にも大きな影響を及ぼしてきた。パ



岩木 敏久さん

ブル崩壊後、状況は大きく変化。少子高齢化が進み、財政難に陥った。またIT化、急成長するアジ



山中 英生さん

山●自立の原則は自己決定。地域の方針は自分たちで決める。そこで、自己決定をする人々を集めて話し合い、コーディネーターが必要がある。自立には、自律もある。自らを律する地域になり、大人として自信を持って行動、発言する四国となり

アという要素もある。その中で、どのように国土をつくっていくかが、今回の国土形成計画。中央と地方の格差は依然としてある。特に財政が厳しい四国で、どう自立をしていくかが大きな課題。

残間 ● これからは、自分たちの潜在能力を絞り出すという作業と、今までやってこなかったことを行う勇氣を持つ。これが自己決定、自己責任に通じる。優先順位をつけ、時間軸のついたプログラムを作り、物と人との資源を有機的に結ぶことが大事。

田村 ● 中心市街地の再開発事業が重要。文化や憩いの場としての機能をウエイトを置き、民主導で、官がバックアップする。また、地域の特性を生か

田村 ● 四国の統一イメージは「遍路」。世界文化遺産登録を目指しているが、遍路道にふさわしい景観の創出に力を入れる必要がある。

岩木 ● 最後に地方計画に盛り込むべき事項について、意見を伺いたい。三木 ● 四国が一体となった発展を図るためには、高速道路8の字ネットワークの早期完成が不可欠。大地震時に大きな被害が予想される四国西南・東南部は、沿岸に一本道しかなく、ライフラインとしても整備が必要。二点目は水資源の確保。四国の渇水の問題は、生活用水の支障だけでなく、企業が四国進出をためらう原因になっている。森林の手入れも含め、総合的な水対策が必要。三木 ● 国際交流基盤の整備。これから成長著しい東アジアのダイナミズムを四国の活性化に取り入れるのが大きな課題。四国と世界各地の国際交流を促進する、ハードソフトの整備を要請する。

岩木 ● 少子高齢化が進み、国から予算が来る時代ではない。そこで、どう知恵を使い、地域を良くしていくか。そのために、自己を律する、「新たな公」の考え方が必要。四国では急速に人口減少、高齢化が進んでいるが、プラス思考で新しい形の自立を目指したい。自ら考へ行動していくことで、地域の品格も出てくるのではないかと。厳しい条件ではあるが、ともに知恵を出し合い、生きがいにつながる役割や場所を生み出していけば、地域を、四国を変えていくことができるのではないか。

基調講演

残間 里江子氏

1950年仙台市生まれ。アナウンサー、雑誌記者を経て、80年にキャンディード・コミュニケーションズを設立。プロデューサーとして、出版・イベントの企画から企業や地域のコミュニケーション・PR戦略まで、幅広い分野で活躍。2005年、シニアの新しいライフスタイルを提案する「株式会社クリエイティブ・シニア」設立。自身も団塊世代の一員として、新しい「大人文化の創造」に積極的に取り組む。「2007年ユニバーサル技能五輪国際大会」の総合プロデューサーを務める。



このままでいいのか！ 団塊の世代（地域づくりの主役）

プロデューサーとして国交省の「コミュニケーションスキル向上懇談会」にかかわっているが、これからは説明責任だけではなく、行政と住民の双方向のコミュニケーションが肝心。地域にも出かけ、わかりやすく役所の人が説明できるようスキル向上を目指せば、誤解もなくなり、公と地域住民がより良い関係を築けると思う。プロデューサーとして重要なテーマの一つが、シニア世代のシーンづくりと役割づくりである。そのために、新しいシニアをクワイエットする会社も立ち上げた。特に約800万人とも1000万人とも言われる団塊の世代が、日本の今後を左右すると言われている。これからは知恵の競争時代。知恵と経験がある団塊の世代が、言わなければならないことはまだまだある。団塊の世代に牽引役になってもらい、新しいシニア層のイメージをつくり、国際社会の中にあっても大人が輝く国にしたい。

団塊の世代の退職金市場は50兆円とも80兆円とも試算されている。このシニア市場を巡って攻防戦が繰り広げられているが、その特性が分かっていない。国においても、いくつかの委員会ができて、国交省では移動住み替えの研究会が始まっている。地域でも、来てもらおうというプロジェクトが始まっているが、ポイントは、人材としてあなたが必要という、活躍できるシーンと役割で誘導すること。自然が豊かで人情の温かい四国は、移住の可能性が高い。そのためにも、団塊の世代の特性を理

解してもらいたい。まず、彼らは自分のことを若いと思っている。まだまだ自分は現役で可能性があると思っている。また、文化に対する志向が強い。特にテレビや映画、アメリカからの影響が強い。変化に対して前向き、肯定的。移住に関しても、シーンが変わることで新しい人生模様が生まれる、チェンジがチャンスにつながるかと考えている。自分を変えてくれる人、変わっている人が好き。しかし、自分はあまり自己主張せず、人にどうみられるかというのを重要視する。また、はっきりノーと言わない限りは、イエスと思って間違いない世代。団塊の世代は、行政をいろいろ批判するが、頼らず自分でやっというところがある。おとなしいようで、プライドを傷つけられると、ひどく激高する。同世代の異性の意見を聞きながら、就職時に苦い思いをした女性たちを含め団塊の世代の数と特性を良い形で活用すると、今までにないマーケットが生まれる。当の団塊の世代は、意見を述べ、行動し、消費者となって意思表示をし、社会とつながっていくことが大事。これまで培ってきた経験値を、世の中を良くするために使うべきだ。その受け皿であるNPOのあり方も一つの課題である。

地域が豊かになり、地域がきちんと歩まない限り、日本に未来はない。地域間格差が広がる時代、地域に魅力ある人材を誘い、知恵を出し比べて、魅力的な四国になっていただきたい。それがひいては魅力的な日本になると信じている。



三木 俊治さん

残間 ● 財政の厳しさ、環境の激変をしっかりと認識した上で自分の足元を見る視点と、世界全体を見る視点を持つことが重要。広角的な視点を持たないと、ある日、足下が急速に崩れる。四国は自然が凝縮した素晴らしい場所、そこに住む自覚を持つてほしい。

山中 ● これまででは、国から予算と使いが指示されてきたが、これからは、それを自分たちで選ぶかという、語る場をつくる必要がある。三木 ● 団塊の世代は、国から予算と使いが指示されてきたが、これからは、それを自分たちで選ぶかという、語る場をつくる必要がある。

若い人がたくさんいて、団塊の世代などは、空き家を買って実際に住み始めた。短期から長期へという流れで成功している。足らないのが中期。ミドルステイが田舎には少ない。活躍の場や役割はいろんな形で生まれてくる。また、まちづくりには切なのはスピリッツ、お酒の空間も交流を活性化させる大切な場。

三木 ● 四国四県が連携することが大事であり、大きな構想には、四国が一つになって取り組まなければならない。それには、相互の情報交換が必要。四国の資源は水や森林。大きな構想の下に、森林利用や水の浄化を考えると、田村 ● 四国の統一イメージは「遍路」。世界文化遺産登録を目指しているが、遍路道にふさわしい景観の創出に力を入れる必要がある。

田村 ● 南海東南海地震の発生確率は、30年以内で50%、50年以内で80%と言われ、四国で最大8000人が亡くなるという。まさにそこにある危機。地震時に死亡ゼロという地域を目指したい。阪神大震災は8割が圧死、建物の耐震から取り組んでいかなければならない。まず一人一人の意識付けが必要。